

子どもたちのインターネット利用の現状①

～子どもたちに見られる現状や傾向にどれくらい気付いていますか～

下の項目で、お子様に当てはまるものはいくつあるでしょうか？

- テレビを見る時間より、ネットを使用している時間の方が長くなっている
- テレビ番組を「テレビ」ではなく「スマホ」で視聴する傾向が見られる
- 定期考査や受験のための勉強に、スマホやタブレットを活用している
- 「スマホばかり」「スマホやめなさい」等の言葉にストレスを感じている
- 行動、言動、考え方等に、ネットから得た情報の影響を受けやすい
- 都合のいい情報を好み、都合の悪い情報を排除・無視する傾向がある
- 欲しいモノ・やりたいコトの情報に困まれ、小遣いが足りないと感じている
- ネット上で金銭やポイントを使う・受け取る・貯めることに違和感がない
- 写真や動画を共有することも、友達とのコミュニケーションになっている
- 同世代の子のSNSを見て、コンプレックスを感じてしまうことがある
- 1つのSNSに複数のアカウントを持ち、上手に使い分けをしている
- 同じ趣味や共通の話題で共感しあえる人を信用する傾向がある

保護者の皆さんも「そう思っていた」という項目もあれば、「言われてみれば」という項目もあったかもしれません。今の子どもたちは、**スマートフォンが普及した環境で生まれ育った世代**です。年齢差や個人差もあるため、上記項目が全ての子どもたちに当てはまるわけではありませんが、特に仲間とのコミュニケーションが欠かせない中・高生の場合、友達同士影響し合うことも多いため、似たような傾向が現れる可能性も高いと考えられます。

保護者世代と比べて、今の子どもたちは、ネットやスマホを活用する術をいろいろ心得ています。例えば、勉強や試験対策にSNSや動画サービスを利用する子も増えており、「スマホを操作している」＝「遊んでいる」と決めつけられ叱られると、腹が立つ、イライラするといった声も聞こえてきます。

大人目線だけではなく、**子どもたちの気持ちや感覚の違いを想像しながら、気になるときは興味を持って尋ね、使い方の把握に努めましょう。**ネット関連の話題で会話をするのも、使い方を知るための有効な手段かもしれません。

また、「子どもにダメだと言っているくせに、大人がやっている」という声は、多くの子どもたちから聞こえてきます。歩きスマホや食事中の操作、休みの日にはゲーム三昧という大人を見ていれば、「自分だってやっているのにズルい」と反発されても仕方ありません。**保護者自身が節度ある使い方を心がけ、子どもたちの模範**となるよう心がけましょう。



<参考>・総務省「インターネットトラブル事例集（2018年度版）」

http://www.soumu.go.jp/main_content/000590558.pdf

本メールに関して御質問、お問い合わせがある場合は下記まで御連絡ください。

【担当】福井県安全環境部県民安全課

☎:0776-20-0745（直通） メール：kenan@pref.fukui.lg.jp